

広瀬慶輔

寝屋川新市長に聞く

A (アゴラ)：新市長、おめでとうございます。

H (広瀬市長)：私は元々、市長を目指していましたが、目指す処に落ち着きました。

A：これからやりたいことがいっぱいですね。

H：まずは寝屋川市の人口構成バランスをとるために、若い子育て世代の人たちが寄ってくるような政策が必要になってきます。

A：具体的な計画は？

H：学研都市線沿線の星田から寝屋川公園、忍ヶ丘にかけて、スポットの開発ではなくて全体のグランドデザインを作ります。山の斜面は優良な戸建ての住宅エリア。線路から西側は大型のマンションが開発できるエリアにする。建物が建てられない土地なんて二束三文ですが、建物が建てられるようになっただけで、2〜3万だった地価が坪当たり何十万になってくる。

A：四條畷市との連携はどうでしょう。

H：忍ヶ丘までの開発となれば、四條畷市との連携は必要になってきます。

A：教育に関しては？

H：小中一貫校を設置します。寝屋川方式を提案して、自分で学習する能力を鍛えるためのカリキュラムをその地域の小中学校に積極的に導入していきます。

A：少子高齢化、高齢化に対する施策は？



H：京阪と学研都市沿線の2軸化構想。京阪軸は40年前に若い世代が入っている。学研都市軸から上げてくる税金で、京阪軸をカバーする。将来、学研都市軸の住民が高齢化すると、京阪沿線は若返るから、互いにフォローしていく仕組み。この2軸化構想が実現できれば、人口構成と税収が安定し、バランスが取れる。高齢化政策ですが、地域の中を巡回する無料の乗り合いワゴンを出します。

A：その運行はどんなイメージですか。

H：買い物が困難な地区が市内に沢山あるので、地域の中を巡回して最寄りのバス停やショッピングセンター、病院まで送るというイメージです。

A：最後に女性の活躍についてのお考えがあればお聞かせください。

H：女性の職員の方で幹部として活躍している方はいますが、若い方にも積極的にチャンスを与えていこうと考えています。自分の中で殻を破っていたような人たちに殻を破って頂くような施策はどんどん取り入れていこうと考えています。